

令和7年度病虫害発生予報第2号（6月予報）概要表

令和7年5月30日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）縞葉枯病		やや多
（3）ヒメトビウンカ		多
（4）イネミズゾウムシ		並
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策</u>		
（1）いもち病（育苗期）		
（2）もみ枯細菌病（育苗期）		
（3）縞葉枯病		
（4）ヒメトビウンカ		
（5）スクミリンゴガイ		
<u>3 なし</u>		
（1）黒星病		やや多
（2）ハダニ類		やや多
（3）果樹カメムシ類		やや多
（4）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		やや多
<u>4 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）オオタバコガ		やや多
（2）ハダニ類		並
（3）アザミウマ類		やや多
<u>5 きゅうり（冬春栽培）</u>		
（1）アザミウマ類		並
（2）コナジラミ類		並
<u>6 ねぎ（秋冬栽培）</u>		
（1）さび病		並
（2）ネギアザミウマ		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>7 茶</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) チャハマキ (第 2 世代幼虫)		並
(3) チャノコカクモンハマキ (第 2 世代幼虫)	並	やや少
(4) チャノホソガ (第 2 世代幼虫)		やや少
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		やや少
(6) カンザワハダニ		並
(7) チャノキイロアザミウマ		並

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和7年度病虫害発生予報第2号（6月予報）

令和7年5月30日
埼玉県病虫害防除所

1 水稲（5月中旬までの移植）（1/2）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○5月中旬の発生量：無 □5月1日～25日までの感染好適日出現日数1日(平成1.9日)：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平成並(+)	・本田での発生を認めたら、「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に、防除対策を実施する。 ・ほ場内の置き苗は感染源となるため、早めに撤去する。
縞葉枯病	やや多	○5月中旬の発生量：無 □ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(参照3)：やや少(-) □6月のヒメトビウンカの予想発生量：多(+)	・本田での発生を認めたら、「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に、ヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は保毒虫増加の原因となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビウンカ	多	○5月中旬の発生量：無 □5月の県予察ほ場における麦ほ場でのヒメトビウンカの生息密度：やや多(+) □5月の麦ほ場でのヒメトビウンカの生息密度(参照4)：やや多(+) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平成並(+)	・本虫は縞葉枯病以外に黒すじ萎縮病も伝搬するため、縞葉枯病抵抗性品種であっても、箱施薬しなかったほ場では本田防除を実施する。
イネミズゾウムシ	並	○5月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い(+)	・本田での発生を認めたら、速やかに本田防除する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照3：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果(令和7年1月16日)

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20250116.html

参照4：麦類ほ場内のヒメトビウンカの生息密度調査結果(令和7年5月30日)

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himetobimitsudo20250530.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 水稲（5月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
いもち病 （育苗期）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、種子予措を実施する。 ・育苗箱に発生した場合、薬剤による防除を実施し、日中は寒冷紗被覆をはがすなどして通風の改善を行う。
もみ枯細菌病 （育苗期）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、育苗管理を実施する。 ・温湯消毒を行う場合、60℃10 分間処理では効果が不十分なことがある。そのため、薬剤による消毒を行うか、事前に十分な発芽率を確認した上で、60℃15 分間処理を行う。 ・病原細菌は高温で増殖するため、催芽時及び播種後の温度が 28℃以上にならないよう管理する。
縞葉枯病	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ、キヌヒカリ等の本病感受性品種で箱施薬を実施しなかった場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、本病ウイルス媒介虫であるヒメトビウンカの本田防除を実施する。
スクミリンゴガイ （ジャンボタニシ）	<ul style="list-style-type: none"> ・移植前の入水時から移植後 3 週間まで、取水口・排水口に 9 mm 目合のネットや金網を設置する。 ・常発地域では、移植時に薬剤の全面散布を行う。特に貝が集まりやすい深水部には重点的に散布する。 ・常発地域では、移植後 3 週間を目安として浅水管理(水深 4cm 以下)を行う。
<p>【共通注意事項】（スクミリンゴガイを除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常発地や昨年多発した地域では、播種期～育苗期に箱施薬剤で防除を徹底する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。 	

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

3 なし

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	やや多	○5月中旬の発生量：並 □開花期から幼果期の降水量： 多い（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。
ハダニ類	やや多	○5月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・ナミハダニ及びカンザワハダニは、5月以降に施設イチゴ、ナスなどから移動して発生が増加することがあるため、注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
果樹 カメムシ類	やや多	○5月中旬の発生量：－ □予察灯等への誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ) (第1世代幼虫)	やや多	○5月中旬の発生量：－ □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を第1世代成虫の発生期（5月下旬～6月上旬）から使用する。ナシ園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なす（夏秋栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
オオタバコガ	やや多	○5月中旬の発生量：－ □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	並	○5月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	
アザミウマ類	やや多	○5月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

5 きゅうり（冬春栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
アザミウマ類	並	○5月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	並	○5月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）の防除対策

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○5月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
ネギ アザミウマ	やや多	○5月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・育苗期間中から防除を徹底する。 ・定植時の防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 茶 (1/2)

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	発生量並	○5月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の病葉数：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並(±)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」「ふくみどり」は発生しやすいため、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ(第2世代幼虫)	発生量やや少	○5月中旬の発生量：無 □県予察灯の越冬世代成虫の誘殺数：やや少(－) □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノコカクモンハマキ(第2世代幼虫)	発生時期並 発生量やや少	○5月中旬の発生量：無 ■県予察ほ場の越冬世代成虫発蛾最盛日は5月13日(平年5月13日)：並(±) □県予察灯での越冬世代成虫の誘殺数：少(－) □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並(+)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ(第2世代幼虫)	発生量並	○5月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の第1世代幼虫による被害芽率：並(±) □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並(±)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 茶 (2/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	やや少	○5月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の被害芽率：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。
カンザワ ハダニ	並	○5月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の寄生葉率：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	並	○5月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の被害芽率：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

(令和7年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和7年5月29日発表)

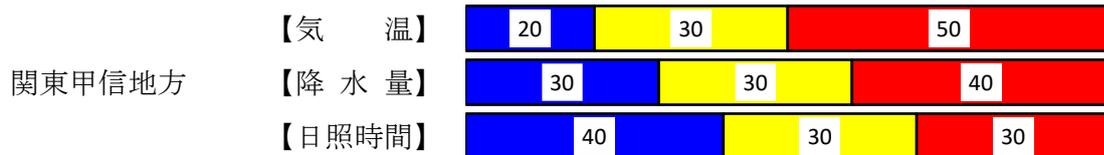
出典：気象庁ホームページ

https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html

<予報のポイント>

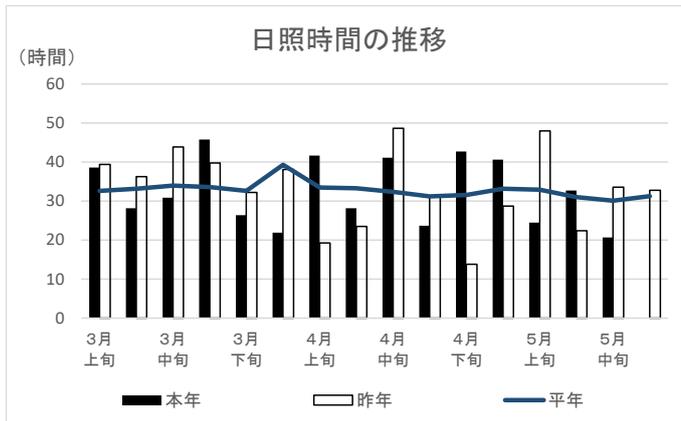
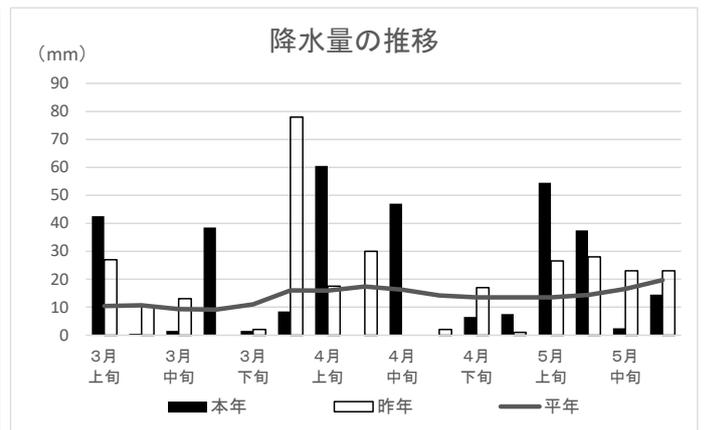
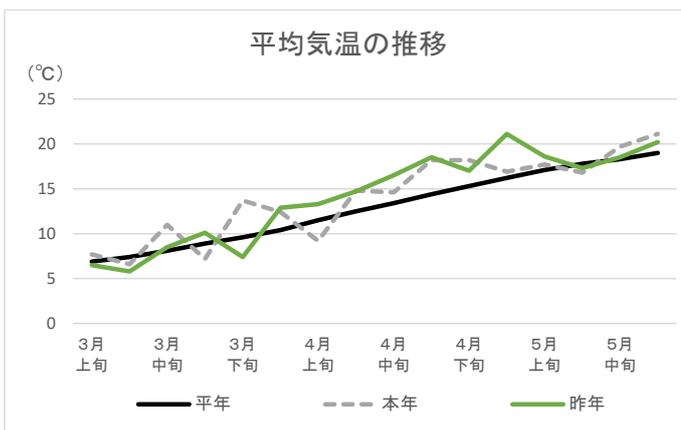
・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>